

共同運営部門：〈周産期センター〉新生児医療センター

—概要—

泉州広域母子医療センターにおける小児科の役割は、新生児医療センターにおけるNICU(neonatal intensive care unit)・GCU(growing care unit)管理運営、産科医療センターにおけるハイリスク分娩立会い、正常新生児診療、及び母児愛着関係支援である。

本年度診療スタッフは、前部長及び専攻医2名退職に伴い、非常勤医2名及び小児科専攻医1名を新規採用し、常勤医3名、専攻医1名(下半期退職、他院救急科転科)、非常勤医2名(体調不良者1名含む)の計6名でスタートしたが、最終的に計4名での運営となり、近年稀に見るマンパワー欠乏事態となった。大阪府内泉州南部地域におけるハイリスク妊娠・分娩及び新生児診療に対応すべく、当センター産婦人科においては産婦人科診療相互援助システム(OGCS)、小児科においては新生児診療相互援助システム(NMCS)に参加し、泉州南部地域周産期医療の活動拠点となっている。OGCSからは緊急母体搬送受け入れ、NMCSからは疾病新生児や早産児搬送を受け入れている。2022年度は、NICUへの入院基準は、在胎25週以上かつ出生体重500g以上としているが、2019年度下半期にマンパワー減少により、一時的に受け入れ週数を引き上げざるを得ない状況も経験し、当センターNICU・GCU運営に関して、医師確保は非常に重要な課題であり続けている。

周産期医療に必須の眼科診療は、当センター眼科常勤医師が2016年3月末に退職後、和歌山県立医科大学眼科学講座に応援医師派遣を依頼、週1回のNICU往診、必要時にはROPに対してNICU病棟内での光凝固術、手術室での抗VEGF抗体眼内投与(2019年11月保険収載)を施行依頼している。眼科常勤医師確保もまた、当センターの重要課題の一つである。又、NICU退院児の外来フォロー診察は、外来眼科非常勤医師にて、週1回の頻度で継続している。

—実績—

NICUの入院統計を表1に示す。2009年9月に泉州広域母子医療センター開設後、入院数は100人前後を維持してきたが、2021度は84人、今年度は80人と横這いで推移し、当院産科及び近隣産科医院の分娩数減少を背景に、コロナ禍による“産み控え”や各NICU施設による入院症例獲得競争の影響が表面化している。入院数80人中、極低出生体重児は10人(12.5%)、うち超低出生体重児は4人(5%)と、緩やかに減少している。これは、近年のNMCS参加施設

入院実績と一致しており、泉州医療圏でも超早産児が減少する傾向が見られた。

緊急母体搬送後に出生、NICU入院となった児は、院内出生67人中、17人(25.4%)と、昨年度29.6%よりやや減少したが、母体治療、切迫早産対応などにより、OGCSもその機能を十分に果たしている。

NMCS基幹施設による新生児搬送入院数は、今年度12例(15.0%)、2021度13例(15.5%)、2020年度27例(27.0%)と、近年は15~30%で推移、高次施設への搬送タイミングは、出生後新生児搬送から出生前母体搬送にシフトしている。

人工換気療法(IPPV)は22人(27.5%)、呼吸補助装置(N-CPAP又はHFNC)は21人(26.2%)に施行した。

表1. NICU入院数 (2022.3~2023.3)

出生体重(g)	院内出生	院外出生	計	IPPV	nCPAP and/or HFNC
<1000	3	1	4	3	1
<1500	6	0	6	3	3
<2500	41	2	43	7	10
≥2500	17	10	27	4	7
計	67	13	80	17	21
在胎期間(週)	院内出生	院外出生	計	IPPV	CPAP and/or HFNC
<28	1	1	2	1	1
<30	4	0	4	4	0
<32	4	0	4	3	1
<34	12	0	12	6	6
<37	33	1	34	1	8
≥37	13	11	24	7	5
計	67	13	80	22	21

—今年度の成果と反省点・来年度への抱負—

COVID-19陽性母体の隔離中分娩立ち会い、健康観察、PCR検査などの新生児対応は、2021年度21例から、今年度19例とやや減少した。全例で経膈分娩出生、母子垂直感染確定例や新生児治療を要した児も認めず、母体隔離解除後に母児退院した。コロナ禍当初は、本邦でも感染管理上、帝王切開が選択されていたが、NMCS・OGCS参加施設、関連学会で知見が蓄積され、「母体状態が許容されれば経膈分娩」が当院を含め各施設で選択可能となった。

本邦では、2016年に初めて出生数が100万人を下回って以降、年々減少の一途を辿り、コロナ禍も相まって2022年には初の80万割れとなった。少子化の影響は周産期医療の現場でもNICU入院数減少という直接的な形で押し寄せている。今後も、泉州南部地域唯一のNICU施設として地域周産期医療を堅持していく為に、小児科医師及び看護スタッフなどのマンパワーを充実させ、やりがいのある職場環境を構築することで、地域の新生児及びその家族へ質の高い医療を提供することが必須である。